

【 専門プログラム 】 【 心理・医療福祉 】

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
心理学の基礎Ⅰ (P101)	2	選択	1年 前期	講義	西川 晶子
【キーワード】 心理学 入門 深層心理学 学習 行動 集団 発達 臨床心理					
【授業内容・授業の目的】 心理学の基礎的内容を講義する。授業で学んだ内容を時間内に要約して提出する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 心理学の基本的な概念や理論を知り、系統的に理解する。自らの体験に引き寄せて前向きに考える力をやしなう。 知識・理解：心理学の基礎的な知識の習得、理解をする。 思考・判断：心理的な問題について正しい知見を基に判断する力を養う。 関心・意欲・態度：心理学が扱う問題について知ろうとする能動的な態度を身に着ける。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 心理学入門		心理学についてイメージ、疑問などを発言できるように準備しておく(4時間)		
2週	心理学って何だろう 科学 無意識		テキストP12～P54 通読(4時間)		
3週	心理学って何だろう 基礎 応用		テキストP12～P54 通読(4時間)		
4週	心理学者から知る心理学 フロイト		テキストP82～P112 通読(4時間)		
5週	心理学者から知る心理学 ユング		テキストP82～P112 通読(4時間)		
6週	心理学者から知る心理学 フロイト以後		テキストP82～P112 通読(4時間)		
7週	心理学者から知る心理学 ヴント ワトソン		テキストP82～P112 通読(4時間)		
8週	発達心理学 誕生から青年期		テキストP114～P148 通読(4時間)		
9週	発達心理学 成人から老年期		テキストP114～P148 通読(4時間)		
10週	対人関係の心理学		テキストP56～P80 通読(4時間)		
11週	集団の中の行動		テキストP150～P174 通読(4時間)		
12週	心を生み出す脳のシステム		テキストP224～P248 通読(4時間)		
13週	心の不調		テキストP176～P222 通読(4時間)		
14週	臨床心理学		テキストP176～P222 通読(4時間)		
15週	性格と深層心理		テキストP250～P279 通読(4時間)		
【成績評価の方法・基準】 授業内容要約、40% 定期試験(レポート) 40% 受講態度20% 知識・理解：定期試験(レポート)に正しい知識と理解が記述されているか評価する。 思考・判断：定期試験(レポート)及び授業内容要約から知識活用力を評価する。 関心・意欲・態度：ショートスピーチ 授業内容要約から意欲関心を評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】 渋谷昌三『決定版 心理学』西東社 ISBN 978-4-7916-2562-8					
【参考書等】 石田勇一『スピリチュアル心理学入門』春風社 ISBN 978-4-86110-179-3					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 関連読書をたくさんしてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
心理学の基礎Ⅱ (P202)	2	選択	1年 後期	講義	西川 晶子
【キーワード】 臨床心理学 心理療法 精神力動的的心理療法 認知行動療法 家族療法 芸術療法 アセスメント					
【授業内容・授業の目的】 講義形式が基本、毎回授業内容の要約を課す。質問紙 芸術療法体験、映像視聴などを通して体験的に学ぶ。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：心理学の基礎的な知見を身に着ける。さまざまな心理療法を知る。 思考・判断：心理的な様々な問題への対処を知り、判断する力を養う。 関心・意欲・態度：心理学が扱う問題について能動的に働きかける意欲を養う。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション アセスメントとセラピー		テキスト18-25p通読(4時間)		
2週	心のなりたち		テキスト26-39p通読(4時間)		
3週	心理療法の理論と歴史		テキスト40-51p通読(4時間)		
4週	臨床心理学の活用法 3大アプローチ		テキスト52-62p通読(4時間)		
5週	心理学的援助のながれ		テキスト64-85p通読(4時間)		
6週	心理検査と診断基準		テキスト86-112p通読(4時間)		
7週	精神力動的アプローチ		テキスト114-125p通読(4時間)		
8週	認知行動的アプローチ		テキスト126-137p通読(4時間)		
9週	ヒューマニスティックアプローチ		テキスト138-145p通読(4時間)		
10週	新たな心理療法の流れ		テキスト146-158p通読(4時間)		
11週	ライフサイクルと生きづらさ		テキスト159-171p通読(4時間)		
12週	主な心理障害		テキスト172-193p通読(4時間)		
13週	主な神経発達障害		テキスト172-193p通読(4時間)		
14週	恋愛に関する心理的な諸問題		テキスト193-200p通読(4時間)		
15週	まとめ		資料、要約をまとめる。(4時間)		
【成績評価の方法・基準】 授業内容の要約 30% 定期試験(レポート) 60% 授業への参加 10% 知識・理解：授業内容の要約および定期試験(レポート)で評価する。 思考・判断：授業内容の要約および定期試験(レポート)で評価する。 関心・意欲・態度：授業内での態度、定期試験(レポート)で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 岩壁茂監修『臨床心理学』 ナツメ社 ISDN 978-4-8163-6854-7					
【参考書等】					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 心理学の基礎Ⅰを履修していることが望ましい。毎回の授業内容要約を大事に考えています。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
発達心理学I (P203)	2	選択	1年 後期	講義	三輪 雅子(※)
【キーワード】 心理的発達 生涯発達 発達段階 各段階における発達課題					
【授業内容・授業の目的】 発達心理学の基礎知識を身につける。生涯発達の視点から乳児期から老年期までの心の発達過程を学ぶ。各発達時期に特有な発達課題を理解し、心理的発達の現代的課題について考察する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業を通して発達心理学の知識による課題解決の能力を身につけることを目指している。 知識・理解：乳児期から老年期までの心の発達過程と発達課題について正しく述べることができる。 技術・表現：発達心理学の理論に関する中心となる考えを自らの理由をあげて主張することができる。 思考・判断：獲得した知識等を身近な課題に適用できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	発達心理学とは：心身の発達の变化	心身の発達の变化について調べておく。(4時間)			
2週	発達心理学とは：生涯発達について	生涯発達について調べておく。(4時間)			
3週	胎児期の発達	胎児期の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
4週	新生児期の発達	新生児期の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
5週	乳児期の発達：身体的発達	乳児期の身体発達の特徴について調べておく。(4時間)			
6週	乳児期の発達：基本的信頼の発達	乳児期の信頼性の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
7週	幼児期の発達：生活習慣の獲得	幼児期の生活習慣の獲得について調べておく。(4時間)			
8週	幼児期の発達：自律性の発達	幼児期の自律性の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
9週	児童期の発達：論理性の発達	児童期の論理性の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
10週	児童期の発達：社会性の発達	児童期の社会性の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
11週	青年期の発達：青年期前期	青年期前期の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
12週	青年期の発達：青年期後期	青年期後期の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
13週	成人期の発達	成人期の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
14週	老年期の発達	老年期の発達の特徴について調べておく。(4時間)			
15週	まとめ	疑問点を明らかにしておく。(4時間)			
【成績評価の方法・基準】 提出物 40%、定期試験（筆記） 40%、受講態度 20% 知識・理解：提出物と定期試験（筆記）によって主要キーワードが正確に説明できているかを評価する。 思考・判断：提出物と定期試験（筆記）によってテーマを論理的に展開できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日 2月10日（土）					
【テキスト】 授業時にプリント、資料を配布する。					
【参考書等】 川端啓之 他 『ライフサイクルからみた発達臨床心理学』 ナカニシヤ出版 ISBN 978-4888482745 山本利和 編 『現代心理学シリーズ発達心理学』 培風館 ISBN 978-4563057473					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業中に重要事項をプリントに記入し知識を深めていく。記入済みプリントを必ず提出してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
発達心理学II (P301)	2	選択	2年 前期	講義	三輪 雅子(※)
【キーワード】 生涯発達 遺伝的要因と環境的要因 ピアジェ フロイト エリクソン アタッチメント					
【授業内容・授業の目的】 発達心理学の基礎知識を身につける。ピアジェ、フロイト、エリクソンの理論から心理的発達過程を学ぶ。認知的特徴、発達課題、社会性、アタッチメントの側面から心の発達を理解し、現代的課題について考察する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業を通して発達心理学の知識による課題解決の能力を身につけることを目指している。 知識・理解：ピアジェ フロイト エリクソンの発達理論について正しく述べることができる。 技術・表現：発達心理学の理論に関する中心となる考えを自らの理由をあげて主張することができる。 思考・判断：獲得した知識等を身近な課題に適用できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	発達とはなにか		発達の変化について調べておく。(4時間)		
2週	発達の原理		発達の原理について調べておく。(4時間)		
3週	発達に影響する要因：遺伝的要因		遺伝的要因について調べておく。(4時間)		
4週	発達に影響する要因：環境的要因		環境的要因について調べておく。(4時間)		
5週	発達の段階：ピアジェの発達理論		ピアジェの理論について調べておく。(4時間)		
6週	発達の段階：フロイトの発達理論		フロイトの理論について調べておく。(4時間)		
7週	発達の段階：エリクソンの発達理論		エリクソンの理論について調べておく (4時間)		
8週	発達の段階：乳児期・幼児期の事例		事例の資料を読んでおく。(4時間)		
9週	発達の段階：児童期・青年期の事例		事例の資料を読んでおく。(4時間)		
10週	発達の段階：成人期・老年期の事例		事例の資料を読んでおく。(4時間)		
11週	乳幼児期の認知的発達		乳幼児期の認知的発達について調べておく。 (4時間)		
12週	アタッチメントと発達		アタッチメントと発達について調べておく。 (4時間)		
13週	遊びから見た乳幼児の発達		遊びと発達について調べておく。(4時間)		
14週	社会性の発達		社会性の発達について調べておく。(4時間)		
15週	まとめ		疑問点を明らかにしておく。(4時間)		
【成績評価の方法・基準】 提出物 40%、定期試験（筆記）40%、受講態度 20% 知識・理解：提出物と定期試験（筆記）によって主要キーワードが正確に説明できているかを評価する。 思考・判断：提出物と定期試験（筆記）によってテーマを論理的に展開できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 授業時にプリント・資料を配布する。					
【参考書等】 桜井茂男 他 『しっかり学べる発達心理学』 福村出版 ISBN 978-4571230370 矢野喜夫 他 『発達心理学への招待―人間発達の全体像をさぐる―』 新心理学ライブラリ(5)サイエンス社 ISBN 978-4781906324					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業中に重要事項をプリントに記入し知識を深めていく。記入済みプリントを必ず提出してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
臨床心理学Ⅰ (P302)	2	選択	2年 前期	講義	三輪 雅子(※)
【キーワード】心の構造と機能 普遍的無意識 心理テスト カウンセリング 自律訓練法					
【授業内容・授業の目的】臨床心理学の基礎知識を身につける。フロイトとユングの理論を通して心の基本的特性を理解し、心理テスト体験により自分自身の心理的特性を理解する。心理療法としてカウンセリングと自律訓練法を身につける。					
【授業の到達目標（学習成果）】この授業を通して臨床心理学の知識による課題解決の能力を身につけることを目指している。 知識・理解：心の構造と機能、普遍的無意識、カウンセリングについて正しく述べることができる。 技術・表現：臨床心理学の理論に関する中心となる考えを自らの理由をあげて主張することができる。 思考・判断：獲得した知識等を身近な課題に適用できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	臨床心理学とは		参考文献を読んでおく。(4時間)		
2週	フロイトによる「心の構造と機能」		心の構造と機能について調べておく。(4時間)		
3週	フロイトによる「自我の防衛機制」		自我の防衛機能について調べておく。(4時間)		
4週	ユングによる「普遍的無意識」		普遍的無意識について調べておく。(4時間)		
5週	ユングによる「元型とイメージ」		元型とイメージについて調べておく。(4時間)		
6週	パーソナリティテスト体験：KT		KTについて調べておく。(4時間)		
7週	パーソナリティテスト体験：NEO		NEOについて調べておく。(4時間)		
8週	パーソナリティテスト体験：TEG		TEGについて調べておく。(4時間)		
9週	パーソナリティテスト体験：採点・レポート作成		パーソナリティテストを実施しておく。(4時間)		
10週	カウンセリング：基礎編		カウンセリングについて調べておく。(4時間)		
11週	カウンセリング：応用編		カウンセリングについて調べておく。(4時間)		
12週	カウンセリング：事例検討		事例の資料を読んでおく。(4時間)		
13週	自律訓練法：基礎編		自律訓練法の基礎技法について調べておく。(4時間)		
14週	自律訓練法：応用編		自律訓練法の応用技法について調べておく。(4時間)		
15週	まとめ		プリントを読み、疑問点を明らかにしておく。(4時間)		
【成績評価の方法・基準】提出物 40%、定期試験（筆記）40%、受講態度 20% 知識・理解：提出物と定期試験（筆記）によって主要キーワードが正確に説明できているかを評価する。 思考・判断：提出物と定期試験（筆記）によってテーマを論理的に展開できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日 8月4日（金）					
【テキスト】授業時にプリント、資料を配布する。					
【参考書等】 坂野雄二他 『臨床心理学ベーシック現代心理学』 有斐閣 ISBN 978-4641086081 森谷寛之他 『はじめての臨床心理学』 北樹出版 ISBN 978-4893845504 下山晴彦 『よくわかる臨床心理学改定新版』 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623054350					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】授業中に重要事項をプリントに記入し知識を深めていく。記入済みプリントを必ず提出してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
臨床心理学Ⅱ (P401)	2	選択	2年 後期	講義	三輪 雅子(※)
【キーワード】 精神分析療法 来談者中心療法 認知行動療法 心理アセスメント 心の健康					
【授業内容・授業の目的】 臨床心理学の基礎知識を身につける。精神分析療法、来談者中心療法により心理療法の基礎を学び、心理テスト体験と認知行動療法ワークで自分自身の心理的特性を理解する。事例を通して心の健康問題を考察する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業を通して臨床心理学の知識による課題解決の能力を身につけることを目指している。 知識・理解：精神分析療法、来談者中心療法、認知行動療法、心の健康について正しく述べることができる。 技術・表現：臨床心理学の理論に関する中心となる考えを自らの理由をあげて主張することができる。 思考・判断：獲得した知識等を身近な課題に適用できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	精神分析療法：理論編		精神分析療法について調べておく。(4時間)		
2週	精神分析療法：応用編		精神分析療法について調べておく。(4時間)		
3週	来談者中心療法：理論編		来談者中心療法について調べておく。(4時間)		
4週	来談者中心療法：応用編		来談者中心療法について調べておく。(4時間)		
5週	来談者中心療法：事例検討		事例の資料を読んでおく。(4時間)		
6週	心理テスト体験：P F スタディ実施		P F スタディについて調べておく。(4時間)		
7週	心理テスト体験：P F スタディ採点・レポート作成		P F スタディを実施しておく。(4時間)		
8週	心理テスト体験：SCT 実施		S C T について調べておく。(4時間)		
9週	心理テスト体験：SCT 採点・レポート作成		S C T を実施しておく。(4時間)		
10週	心理アセスメント：面接法・観察法		面接法・観察法について調べておく。(4時間)		
11週	心理アセスメント：質問紙法・投映法		質問紙法・投映法について調べておく。(4時間)		
12週	認知行動療法：理論編		認知行動療法について調べておく。(4時間)		
13週	認知行動療法：応用編		認知行動療法について調べておく。(4時間)		
14週	心の健康と精神障害		心の健康について調べておく。(4時間)		
15週	まとめ		疑問点を明らかにしておく。(4時間)		
【成績評価の方法・基準】 提出物 40%、定期試験（筆記） 40%、受講態度 20% 知識・理解：提出物と定期試験（筆記）によって主要キーワードが正確に説明できているかを評価する。 思考・判断：提出物と定期試験（筆記）によってテーマを論理的に展開できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日 2月10日（土）					
【テキスト】 授業時にプリント、資料を配布する。					
【参考書等】 坂野雄二他 『臨床心理学ベーシック現代心理学』 有斐閣 ISBN 978-4641086081 森谷寛之他 『はじめての臨床心理学』 北樹出版 ISBN 978-4893845504 下山晴彦 『よくわかる臨床心理学改定新版』 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623054350					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業中に重要事項をプリントに記入し知識を深めていく。記入済みプリントを必ず提出してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
医療事務Ⅰ (P208)	2	選択	1年 後期	講義	ニチイ学館
【キーワード】 ・医療事務 ・資格取得 ・病院勤務 ・専門職 ・メディカルクラーク					
【授業内容・授業の目的】 ・授業は講義形式とし、保険医療機関で使用されている「診療情報点数表の解釈」の膨大で複雑な内容を初心者にもわかりやすく解説します。 ・「厚生労働省認定教材」を使用し、実践的カリキュラムでスキルを身につけます。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：メディカルクラークの資格取得を目指し、必要な知識を身につけることができる。 技能・表現：メディカルクラークの資格取得を目指し、必要な技能を身につけることができる。 関心・意欲・態度：医療事務を仕事としていくための態度やスキルを身につけることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
2週	医療保険制度①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
3週	医療保険制度②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
4週	医療保険制度③		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
5週	医療保険制度④		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
6週	初診料		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
7週	再診料		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
8週	注射①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
9週	注射②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
10週	投薬①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
11週	投薬②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
12週	投薬③		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
13週	画像診断①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
14週	画像診断②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
15週	リハビリテーション		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
【成績評価の方法・基準】 ①受講態度 20% ②学習状況 20% ③課題提出 30% ④内容理解 10% ⑤定期試験（修了試験） 20%					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 医療事務講座（医療事務Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通） ●テキスト1・2・3・4 ●スタディブック ●医科ハンドブック ●医科診療報酬点数表 ●基礎問題集 ●技能問題集 ●医事事務用電卓 ●インデックスシール					
【参考書等】 なし					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・安定性も将来性も高い「医療事務」を仕事にするために有効となる資格を目指し、知識と技術を習得するための授業です。医療事務の現場で必要不可欠な専門知識から、接遇マナーまで実践的なカリキュラムで学び、今後の就職活動にも役立つ授業内容です。 ・資格試験は資料の持込が可能のため、日々の努力が資格取得につながります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
医療事務Ⅱ (P209)	2	選択	1年 後期	講義	ニチイ学館
【キーワード】 ・医療事務 ・資格取得 ・病院勤務 ・専門職 ・メディカルクラーク					
【授業内容・授業の目的】 ・授業は講義形式とし、保険医療機関で使用されている「診療情報点数表の解釈」の膨大で複雑な内容を初心者にもわかりやすく解説します。 ・「厚生労働省認定教材」を使用し、実践的カリキュラムでスキルを身につけます。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：メディカルクラークの資格取得を目指し、必要な知識を身につけることができる。 技能・表現：メディカルクラークの資格取得を目指し、必要な技能を身につけることができる。 関心・意欲・態度：医療事務を仕事としていくための態度やスキルを身につけることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	処置①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
2週	処置②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
3週	手術		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
4週	輸血、麻酔		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
5週	患者接遇①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
6週	患者接遇②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
7週	医学管理①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
8週	医学管理②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
9週	在宅医療		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
10週	検査①		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
11週	検査②		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
12週	検査③		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
13週	検査④、病理診断		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
14週	入院料		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
15週	点数算定と明細書記載のまとめ		該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）		
【成績評価の方法・基準】 ①受講態度 20% ②学習状況 20% ③課題提出 30% ④内容理解 10% ⑤定期試験（修了試験）20%					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 医療事務講座（医療事務Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通） ●テキスト1・2・3・4 ●スタディブック ●医科ハンドブック ●医科診療報酬点数表 ●基礎問題集 ●技能問題集 ●医事事務用電卓 ●インデックスシール					
【参考書等】 なし					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・安定性も将来性も高い「医療事務」を仕事にするために有効となる資格を目指し、知識と技術を習得するための授業です。医療事務の現場で必要不可欠な専門知識から、接遇マナーまで実践的なカリキュラムで学び、今後の就職活動にも役立つ授業内容です。 ・資格試験は資料の持込が可能のため、日々の努力が資格取得につながります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
医療事務Ⅲ (P210)	2	選択	1年 後期	講義	ニチイ学館
【キーワード】 ・医療事務 ・資格取得 ・病院勤務 ・専門職 ・メディカルクラーク					
【授業内容・授業の目的】 ・授業は講義形式とし、保険医療機関で使用されている「診療情報点数表の解釈」の膨大で複雑な内容を初心者にもわかりやすく解説します。 ・「厚生労働省認定教材」を使用し、実践的カリキュラムでスキルを身につけます。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：メディカルクラークの資格取得を目指し、必要な知識を身につけることができる。 技能・表現：メディカルクラークの資格取得を目指し、必要な技能を身につけることができる。 関心・意欲・態度：医療事務を仕事としていくための態度やスキルを身につけることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	明細書作成	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
2週	明細書作成	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
3週	明細書作成	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
4週	明細書点検	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
5週	明細書点検	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
6週	明細書点検	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
7週	明細書点検	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
8週	明細書点検	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
9週	技能審査対策	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
10週	技能審査対策	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
11週	技能審査対策	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
12週	技能審査対策	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
13週	技能審査対策	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
14週	技能審査対策	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
15週	まとめ	該当ページを読み課題は必ず行うこと（4時間）			
【成績評価の方法・基準】 ①受講態度 20% ②学習状況 20% ③課題提出 30% ④内容理解 10% ⑤定期試験（修了試験）20%					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 医療事務講座（医療事務Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通） ●テキスト1・2・3・4 ●スタディブック ●医科ハンドブック ●医科診療報酬点数表 ●基礎問題集 ●技能問題集 ●医事事務用電卓 ●インデックスシール					
【参考書等】 なし					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・安定性も将来性も高い「医療事務」を仕事にするために有効となる資格を目指し、知識と技術を習得するための授業です。医療事務の現場で必要不可欠な専門知識から、接遇マナーまで実践的なカリキュラムで学び、今後の就職活動にも役立つ授業内容です。 ・資格試験は資料の持込が可能のため、日々の努力が資格取得につながります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
手話Ⅰ (P303)	1	選択	2年前期	演習	武居みさ
【キーワード】コミュニケーション能力、全身表現、表情、手話、指文字、聴覚障害者、異文化理解、難聴者					
【授業内容・授業目的】視覚言語としての手話を学びます。手話の基礎である日常会話を中心に演習をします。さらに言語の背景であるろう文化を知り、聴覚障害の基礎知識について、講義、DVD、実際のろう者のお話を聞くなどして理解を深めていきます。					
【授業の到達目標（学習成果）】					
・聴覚障害について理解することができる。 ・指文字を習得し、手話で自己紹介ができる。					
【知識・理解】音が聞こえない聞こえにくい世界で生きていく、ということを理解しさまざまな価値観に触れる。					
【技能・表現】社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。					
【関心・意欲・態度】人間、自然、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること					
授業計画			準備学習等		
1週	手話を学ぶにあたって：挨拶・色の表現		手話を扱ったテレビ、本等、調べておく（1時間）		
2週	聞こえないということ：数・名前		挨拶・色の復習をしておく（1時間）		
3週	聞こえのしくみ：年齢・電話・体重・身長・いくら？		教科書を読み、数の復習をしておく（1時間）		
4週	聴覚障害の原因：指文字		数に関する表現の復習をしておく（1時間）		
5週	手話とは：家族・人物		指文字のトレーニングをしておく（2時間）		
6週	談話・口話：スポーツ・趣味		指文字で家族の名前を練習しておく（1時間）		
7週	筆談・コミュニケーションのまとめ：住所・出身地		家族や兄弟の表現を復習しておく（1時間）		
8週	情報保障について：誕生日・県名		趣味やスポーツの表現を復習しておく（1時間）		
9週	ろう教育の現状：仕事・将来の夢		日にちの表し方を復習しておく（1時間）		
10週	高齢ろう者の支援：時間・一日の生活		仕事の表現を復習しておく（1時間）		
11週	難聴者の生活と心理		時間の表し方の復習をしておく（1時間）		
12週	ろう重複障害について：スピーチ原稿作成		自己紹介ができるように復習しておく（1時間）		
13週	ろう者の生活と心理		指文字が読み取れるように復習しておく（1時間）		
14週	手話の資格制度：スピーチ練習		教科書によく目を通し、レポートを作成する。（1時間）		
15週	まとめ		自己紹介の練習及びレポートの作成（1時間）		
【成績評価の方法・基準】・実技テスト（60%）・レポート（40%）を総合して評価します。 ・授業での小テスト、関心・意欲・態度など、積極的な他者とのコミュニケーションも評価対象です。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】武居みさ 『手話のワークブック』 自主作成テキスト					
【参考書等】 『わたしたちの手話学習辞典』全日本ろうあ連盟出版局じゅ 『きこえない子の心・ことば・家族』河崎 佳子 明石出版 『初めての手話』木村春美・市田泰弘著 日本文芸社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】					
・音声日本語を頭から追い出し、手話をまるごと受け止めるようにしましょう。 ・手話の実技は、積み重ねの学習です。できるだけ遅刻・欠席しないよう努力しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
手話Ⅱ (P407)	1	選択	2年 後期	演習	武居みさ
【キーワード】 コミュニケーション能力、全身表現、表情、手話、指文字、聴覚障害者、異文化理解、難聴者					
【授業内容及び方法】 聴覚障害の基礎知識については、講義形式で進めます。手話の基礎表現については演習形式で繰り返し学生同士会話をすることで身に付けていきます。					
【授業の到達目標（学習成果）】 ・多様な聴覚障害について理解を深める。 ・身近な話題の日常会話が手話でできる。手話で「アメニモマケズ」が表現できる。 【知識・理解】 音が聞こえない世界で生きていく、ということを理解しさまざまな価値観に触れる。 【技能・表現】 社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。 【関心・意欲・態度】 人間、自然、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること					
授業計画			準備学習等		
1週	ろう教育の歴史：総復習1		前期の復習・教科書を読む(1時間)		
2週	福祉制度・福祉機器：総復習2		前期の復習・教科書を読む(1時間)		
3週	ろうあ運動1「ゆずり葉」視聴		教科書を読んでおく(30分)		
4週	ろうあ運動2		「ゆずり葉」の感想をまとめる(1時間)		
5週	天候・通学・交通手段		指文字を復習しておく(2時間)		
6週	ろう者とフリーディスカッション		交通手段の復習をしておく(1時間)		
7週	盲ろう者1：地図		天候の復習をしておく(1時間)		
8週	盲ろう者2：僕と家族の1週間		地図の復習・「見えず・聞こえずとも」感想をまとめる(1時間)		
9週	手話の資格制度：1年間の行事		1週間の表現を練習しておく(1時間)		
10週	旅行計画：今日の夕食は？		1年間の行事の復習をしておく(1時間)		
11週	ろう者とフリーディスカッション2		食材・県名の手話を練習しておく(1時間)		
12週	「アメニモマケズ」実技		教科書を読み、詩を音読しておく(1時間)		
13週	「アメニモマケズ」実技		アメニモマケズの復習をしておく(2時間)		
14週	「アメニモマケズ」仕上げ		アメニモマケズの発表練習(1時間)		
15週	まとめ		繰り返し表現してみる		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(手話の実技)60%、読取りテスト(40%)により総合評価。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 武居みさ『手話のワークブック』 自主作成テキスト					
【参考書等】 『私たちの手話学習辞典』全日本ろうあ連盟出版局 河崎 佳子『きこえない子の心・ことば・家族』 明石出版 木村春美・市田泰弘著『初めての手話』 日本文芸社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 音声日本語を頭から追い出し、手話をまるごと受け止めるようにしましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
生命と倫理 (P226)	2	選択	1年 後期	講義	森本 健一
【キーワード】 遺伝の基礎知識、遺伝情報とゲノム編集、出生前検査、優生思想と国家政策、ウイルスと感染症問題					
【授業内容・授業の目的】 今日なお、世界では、人種差別や民族差別、性差別や障害者差別など様々な差別が続いている。国家による出生管理や人工妊娠中絶をめぐる議論も国によって様々である。また生命の神秘を人の能力と遺伝の関係および遺伝子解釈、クローン技術、出生前検査など医療技術の問題点から学ぶ。さらに世界の様々な国々におけるいじめや人種・民族問題、テロ・迫害・難民など人権に関わる諸課題や、動物虐待問題、感染症問題を考察し、「生命の尊厳」「優生思想」について考える。視聴覚教材、パソコン、新聞記事等を活用し、リアルタイムでの生命にかかわる時事問題を随時学習し、社会的問題への関心を高めてもらう。通常授業では、毎時間の最初に、事前に提示されている3つのキーワードについて、事前知識学習の確認を行いながら、問題理解を深化させて行く。					
【授業の到達目標（学習成果）】 世界の生命・人権をめぐる歴史を理解し、「生命」「優生思想」に関するしっかりとした知識をもち、日進月歩で進む生命操作技術について、情報分析をし、生命尊厳・人権尊重の観点から深く考えられる論理・倫理力を醸成する。 知識・理解：生命・人権に関する歴史や最新技術などの用語（キーワード）をしっかりと理解する 思考・判断：様々な価値観による社会的影響を与えた思想・出来事について、背景を考える 関心・意欲・態度：急速に進む医療技術が人類社会にどのような影響を与えるかを考える					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス（オリエンテーション）	人の生物学的属性、人類と感染症（1時間）			
2週	遺伝の不思議（一卵性双生児）	一卵性・二卵性、双子研究、行動遺伝学（1時間）			
3週	遺伝子応用技術1（遺伝子DNAの世界）	ゲノム、遺伝子DNA、遺伝子マップ（1時間）			
4週	遺伝子応用技術2（男と女のちがい）	性染色体（X,Y染色体）、性の揺らぎ、LGBT（1時間）			
5週	遺伝子応用技術3（遺伝子解釈）	先天性異常、遺伝病、ゲノム編集技術（1時間）			
6週	遺伝子応用技術4（遺伝子差別）	遺伝子解釈キット、映画「ガタカ」（1時間）			
7週	生殖医療技術1	代理母出産、人工授精、精子銀行（1時間）			
8週	生殖医療技術2	出生前検査、命の選択、21トリソミー（1時間）			
9週	生殖医療技術3	妊娠中絶、優生保護法、母体保護法（1時間）			
10週	内なる差別意識 （いじめ解決の人権教育プログラム例）	内なる差別意識、無意識の偏見、スティグマ（1時間）			
11週	国家レベルの優生思想 （ナチスドイツの強制収容所）	ホロコースト政策、T4計画、アンネの日記（1時間）			
12週	動物虐待と命の尊厳	毛皮問題・畜産動物、実験動物、動物園（1時間）			
13週	国家レベルの優生思想2 （日本の人権差別）	ハンセン病、強制不妊手術、731部隊（1時間）			
14週	国家レベルの優生思想3（ルーマニア）	チャウセスクの孤児、エイズ感染、発達障害（1時間）			
15週	生まれながらの差別（アメリカ、インド）	人種問題、黒人内差別問題、カースト制度（1時間）			
【成績評価の方法・基準】 授業毎提出のミニレポートでのまとめ・コメント（感性表現力60%）、最終レポートの完成度（40%）。 知識・理解：生命・人権に関する歴史や最新技術などの用語（キーワード）をしっかりと理解できたか 思考・判断：様々な価値観による社会的影響を与えた思想・出来事について、その背景を理解できたか 関心・意欲・態度：急速に進む医療技術が人類社会に与える影響について関心をしっかりと持っているか					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。 詳細は各学期、掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 小林亜津子 『はじめて学ぶ生命倫理』 筑摩書房 ISBN 978-4-480-68868-2					
【参考書等】 ティム・スペクター 『双子の遺伝子 IDENTICALLY DIFFERENT』 ダイヤモンド社 ISBN 978-4-478022931 フランツ・ファンン 『黒い皮膚・白い仮面』 みすず書房 ISBN 978-4-622050285 資料：「障害者差別解消法」、「日本の動物保護条例」、アメリカ・ジムクロウ法（黒人差別法）、新型コロナウイルス感染症					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 すべての生き物が遺伝情報に基づき形質発現するという生命誕生の神秘性を学び、優生学的あるいは民族主義的差別意識など生命軽視・人権無視の風潮、感染症問題に対してしっかりとした情報分析を行い生命尊厳の倫理観・価値観を確立してほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会福祉論 (P226)	2	選択	1年 前期	講義	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 地域福祉、近代家族、現代社会、連鎖、ジェンダー					
【授業内容・授業の目的】 日本社会の一員として、お互いを認め合い、個人を大切にす福祉社会を目指して様々な問題・課題について考える。新聞記事等を活用し、現代社会が抱える問題について、より良い方向へ導くとともに、自身の問題として考える力をつけることを目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：現代社会での様々な問題・課題を理解することができる 思考・判断：社会の問題について、その現状・原因・課題・解決策などを考えることができる 関心・意欲・態度：社会の問題について、積極的かつ意欲的に調べ考えることができる					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション	シラバスを読み、自身の興味がある内容について調べておく（4時間）			
2週	社会福祉とは	“福祉”の意味を考えておく（4時間）			
3週	社会福祉の歴史	福祉の歴史を調べておく（4時間）			
4週	近代家族	現代の家族の特徴を考えておく（4時間）			
5週	児童福祉の現状	児童の現状の問題点を考えておく（4時間）			
6週	児童福祉の歴史	児童の権利について考えておく（4時間）			
7週	障がい児福祉	障がいのある子どもの現状について考えておく（4時間）			
8週	障がい者福祉	障がいのある人の現状について考えておく（4時間）			
9週	高齢者福祉の現状	高齢者の現状について考えておく（4時間）			
10週	高齢者福祉の今後	介護保険などの現状を調べておく（4時間）			
11週	貧困問題	貧困の原因や課題を考えておく（4時間）			
12週	ひとり親世帯	ひとり親世帯の現状と課題を考えておく（4時間）			
13週	女性福祉・ジェンダー	ジェンダーについて調べておく（4時間）			
14週	福祉社会をつくるには	日本社会の問題点・課題を考えておく（4時間）			
15週	まとめ 理想の社会を考える	社会のために自分は何ができるかを考えておく（4時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、受講態度30%、提出物20% 知識・理解：現代社会での様々な問題・課題を理解することができたか、定期試験と提出物で評価する 思考・判断：社会の問題の現状・課題・解決策などを考えることができたか定期試験と提出物で評価する 関心・意欲・態度：社会問題について、積極的かつ意欲的に調べ考えることができたか受講態度で評価する					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 岡田忠克編 『図表で読み解く社会福祉入門』 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-06201-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 現代社会の現状と課題を“福祉”という観点から学ぶため、日々の報道（テレビ・新聞・ネット等）に興味を持ってほしい。その上で、どのような社会が望まれるのかについて自分なりの疑問や考えを持ってほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
児童福祉論 (P402)	2	選択	2年 後期	講義	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 子どもの権利、虐待、貧困、社会的養護、障がい児					
【授業内容・授業の目的】 子どもの権利を保障するために、私たちは何ができるのか。新聞記事等を活用し、様々な問題に接することで、課題・解決策等について考える力をつけることを目的とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解:子どもを取り巻く様々な問題・課題を理解することができる。 思考・判断:子どもに関する問題について、その現状・原因・課題・解決策などを考えることができる。 関心・意欲・態度:様々な問題について、積極的かつ意欲的に調べ考えることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 子どもとは		自身の子ども時代を振り返り“子どもとは何か”をを考えておく(4時間)		
2週	子どもの権利		子どもの権利について調べておく(4時間)		
3週	現代社会と児童福祉		子どもを取り巻く社会問題を調べておく(4時間)		
4週	子どもの虐待・DVとその予防		児童虐待の現状を調べておく(4時間)		
5週	貧困家庭・外国籍の子どもへの対応		貧困によるデメリットを調べておく(4時間)		
6週	ひとり親家庭の課題		ひとり親家庭での課題を調べておく(4時間)		
7週	障がいのある子どもへの対応		障がいとは何かを調べておく(4時間)		
8週	少子化と待機児童		少子化の影響を調べておく(4時間)		
9週	子どもを取り巻く課題を考える		子どもの未来を想像し、課題をまとめておく(4時間)		
10週	児童福祉の歴史		児童福祉の歴史を調べておく(4時間)		
11週	児童に関する法律		児童福祉法について調べておく(4時間)		
12週	社会的養護		社会的養護とは何かを調べておく(4時間)		
13週	地域の中の子どもたち		子どものために地域は何ができるか調べておく(4時間)		
14週	子育て家庭支援の取り組み		自身の地元で行われている子育て家庭支援を調べておく(4時間)		
15週	まとめ 児童福祉の課題と展望		授業で学んだことを、キーワードと関連させてまとめておく(4時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(筆記)50%、受講態度30%、提出物20% 知識・理解:子ども関係の問題や課題を理解できたか定期試験と提出物で評価する。 思考・判断:子どもの現状・原因・課題・解決策等を考えることができたか定期試験と受講態度で評価する。 関心・意欲・態度:様々な問題について、積極的かつ意欲的に調べ考えることができたか定期試験と受講態度で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する					
【参考書等】 喜多一憲監修 『みらい×子どもの福祉ボックス 子ども家庭福祉』 みらい ISBN 978-4-86015-4998					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 少子化が問題化されているが、子どもを取り巻く様々な課題は山積している。自身の子ども時代を思い出しながら、自身の課題として、授業に真剣に取り組んでほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
健康スポーツ (P115)	1	選択	1年 前期	実技	高井 和男
【キーワード】生涯スポーツ、運動あそび、健康、コミュニケーション、ゲーム					
【授業内容・授業の目的】 スポーツ実践を通して、体力の向上や健康の増進を図ることをねらいとする。 スポーツを通してそれぞれの種目特性を探り、技術レベルを高める。またゲームに必要な戦術、ルールなどの理解を深めながら、ゲーム本来の楽しさやグループで行なう楽しさを体験する。					
【授業の到達目標（学習成果）】この授業の目標は、スポーツの知識や技術向上だけでなく、対人コミュニケーションをより積極的に図ることができ、在学中のみならず、卒業後も継続してスポーツを楽しみながら健康づくりができるようになることである。 論理的思考力：活動内容について理解し、実施する種目に応じて説明することができる。 実践力と協働性：技術や戦術について他者と相談することや、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができる。 保育の方法と技能：スポーツを行なう楽しさや技能が身につく、さらに健康への関心を深めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション (授業の進め方と授業内容)	シラバスの確認と受講準備 (1時間)			
2週	バドミントン① ドライブとハイクリアの練習	バドミントンラケットの使い方について調べ練習しておく (1時間)			
3週	バドミントン② ドロップとサーブの練習	サーブの仕方について調べ練習しておく (1時間)。			
4週	バドミントン③ スマッシュ練習とダブルスゲーム	ダブルスのルールについて確認しておく (1時間)。			
5週	バドミントン④ コンビネーション 練習とダブルスゲーム	ダブルスのゲームを動画で観ておく (1時間)			
6週	バドミントン⑤ ダブルスゲームのリーグ戦	ダブルスの戦術について確認しておく (1時間)。			
7週	卓球① 基本の練習	サーブとレシーブを動画で観ておく (1時間)			
8週	卓球② 応用の練習と戦術	フォアハンドとバックハンドについて調べ練習しておく (1時間)			
9週	卓球③ ダブルスゲームのリーグ戦	ダブルスのルールについて確認しておく (1時間)			
10週	バレーボール① 基本の練習	レシーブ、トス、アタックを動画で観ておく (1時間)			
11週	バレーボール② 応用の練習と戦術	3段攻撃を動画で事前に観ておく (1時間)			
12週	バレーボール③ ゲームリーグ戦	ゲームのルールを確認しておく (1時間)。			
13週	バレーボール④ ゲームトーナメント	ゲームの戦術を確認しておく (1時間)			
14週	バドミントン 卓球 バレーボール (種目選択)	ゲームを動画で観ておく (1時間)			
15週	まとめとふり返り	授業で学んだことを今後どう生かすかをふり返る (1時間)			
【成績評価の方法・基準】受講態度 40%、技能 30%、定期試験 (レポート) 30% 論理的思考力：活動内容について理解しているかをレポートで評価する。 実践力と協働性：技術や戦術について、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができるか、受講態度で評価する。 保育の方法と技能：スポーツの特性への理解や運動スキルについて習得しているか、技能で評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日 (仮称)」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日 8月4日 (金)					
【テキスト】授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】大修館書店編集部『観るまえに読む 大修館 スポーツルール 2019』大修館書店 ISBN 9784469268614					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 運動に適したウェア、シューズを準備する。健康に留意し、授業に積極的に参加する。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
健康スポーツ (P115)	1	選択	1年 後期	実技	松崎 旻
【キーワード】 コミュニケーション能力向上、健康実現と食育、スポーツ特性理解、豊かなスポーツライフを維持					
【授業内容・授業の目的】 心と体を一体ととらえ、健康・安全や運動について理解をする。週1回の限られた機会を大切に、体を動かす喜びを体験すると同時に、自らスポーツの本質からの享受できるグループワークや対話形式を追求・展開を深めていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：スポーツが健やかで心豊かに生活できる活力を生む源となることを身に付けることができる。 技能・表現：スポーツの特性を理解し健康実現を計画することができる。 関心・意欲・態度：運動を通じて身の回りの人とコミュニケーションづくりが上手にできるようにおこなう。					
授業計画			準備学習等		
1週	健康スポーツとは。軽体操の種類		体操・ストレッチの紅葉をグループワークする (1時間)		
2週	コーディネーション運動とは		皆で考え作ろうコーディネーション運動 (1時間)		
3週	ニュースポーツの定義とスポーツの違い		ニュースポーツを考えよう (1時間)		
4週	ソフトバレーボール		ニュースポーツ的にルールを考えよう (1時間)		
5週	ソフトバレーボールの実戦		守備と攻撃の戦術をチームで考える (1時間)		
6週	ソフトバレーボールの実戦		サーブ、レシーブを思いとおりに実践できる (1時間)		
7週	フライングディスク		キャッチング&スローイング (1時間)		
8週	フライングディスク		色んなスローイング、デスクを使う遊びを考える (1時間)		
9週	フライングディスク		アルティメットゲームの実践 (1時間)		
10週	単縄・長縄・ダブルタッチの跳び方		1人跳び、集団跳び (1時間)		
11週	単縄・長縄・ダブルタッチの跳び方		各種の縄で、色々な跳び方を考えよう (1時間)		
12週	バドミントン		ルール解説と技術 (1時間)		
13週	バドミントン		ダブルスにおける戦術研究とゲーム運び (1時間)		
14週	バスケットボール		各年代層のバスケットボールの楽しみ方 (1時間)		
15週	バスケットボール		3×3 ゲームの楽しさを学ぶ (1時間)		
【成績評価の方法・基準】 受講態度（参加姿勢）、技能・理解度とその発展性能力を鑑みて総合評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は、各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 特になし、必要に応じて中高時における教科書を活用する。図書館の活用も行う。					
【参考書等】 必要に応じて資料を配布する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・積極的態度にて自らの課題を持ち取り組む ・運動着、運動シューズを原則使用する。(運動に不適切な服装は認めない)					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
生涯スポーツI (P308)	1	選択	2年 前期	実技	松崎 旻
【キーワード】 コミュニケーション能力向上、健康実現と食育、スポーツの特性理解、豊かなスポーツライフを維持					
【授業内容・授業の目的】 健康を維持するために欠かすことのできないスポーツの重要性を理解し、自らの健康の維持・増進を図る。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育て、仲間と積極的に協力し合い、スポーツの楽しさを知り技能の向上を養うことを狙いとする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：スポーツを通して個人の心身の健康実現を目指す力を付けることができる。 技能・表現：健康維持のための食育を学ぶことができる。 関心・意欲・態度：運動を通して地域社会や身近な人とコミュニケーション能力を高めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	生涯スポーツの意義		生涯スポーツのとらえ方を考える（1時間）		
2週	ニュースポーツとは。スポーツライフとは。		豊かな人生とスポーツの係り方（1時間）		
3週	ニュースポーツと自作スポーツ		水らのスポーツを考案する（1時間）		
4週	ニュースポーツを楽しもう		ニュースポーツとルールの考え方（1時間）		
5週	単縄・長縄の跳び方		縄跳びの色々な跳び方を考える（1時間）		
6週	単縄・長縄を楽しく飛ばう ソフトバレーボール		ソフトバレーボールの特性（）1時間		
7週	ソフトバレーボール		チーム戦術を考える（1時間）		
8週	ソフトバレーボール		ソフトバレーボールの実戦（1時間）		
9週	バドミントン		個人課題練習（1時間）		
10週	バドミントン		シングルとダブルスの特性（1時間）		
11週	バドミントン		混合ダブルス ゲームを楽しもう（1時間）		
12週	バスケットボール	卓球	種目選択をして楽しもう（1時間）		
13週	バスケットボール	卓球	種目選択をして楽しもう（1時間）		
14週	バスケットボール	卓球	種目選択をして楽しもう（1時間）		
15週	バスケットボール	卓球	種目選択をして楽しもう（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 受講態度（参加姿勢）、技能・理解度とその発展性能力を鑑みて総合評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は、各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 特になし、必要に応じて中高時における教科書を活用する。図書館の活用も行う。					
【参考書等】 必要に応じて資料を配布する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・積極的な態度にて自らの課題を持ち取り組む ・運動着、運動シューズを原則使用する。（運動に不適切な服装は認めない）					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
生涯スポーツⅡ (P408)	1	選択	2年 後期	実技	松崎 旻
【キーワード】 コミュニケーション能力向上、健康実現と食育、スポーツの特性理解、豊かなスポーツライフを維持					
【授業内容・授業の目的】 健康を維持するために欠かすことのできないスポーツの重要性を理解し、自らの健康の維持・増進を図る。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育て、仲間と積極的に協力し合い、スポーツの楽しさを知り技能の向上を養うことを狙いとする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：スポーツを通して個人の心身の健康実現を目指す力を付けることができる。 技能・表現：健康維持のための食育を学ぶことができる。 関心・意欲・態度：運動を通して地域社会や身近な人とコミュニケーション能力を高めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ニュースポーツを学ぼう		インドア バタンの技術を考える (1時間)		
2週	ニュースポーツを学ぼう		インディアカの技術を考える (1時間)		
3週	ニュースポーツを学ぼう		フライングディスクの技術を考える (1時間)		
4週	ゴルフ		ゴルフについての基本知識と技術 (1時間)		
5週	ゴルフ		スイング理論と打ち方 (1時間)		
6週	ゴルフ		ミニコースでゴルフを楽しむ (1時間)		
7週	卓球・ソフトバレーボール	種目選択	共にサーブ研究をしよう (1時間)		
8週	卓球・ソフトバレーボール	種目選択	チームプレイを考える (1時間)		
9週	卓球・ソフトバレーボール	種目選択	勝利への戦術を考えよう (1時間)		
10週	ユニホック		ユニホックの基本技術 (1時間)		
11週	ユニホック		チームプレイを考える (1時間)		
12週	ユニホック		ゲームを楽しむ (1時間)		
13週	バドミントン・バスケットボール	種目選択	特性を考える (1時間)		
14週	バドミントン・バスケットボール	種目選択	ゲームを楽しむ (1時間)		
15週	バドミントン・バスケットボール	種目選択	ゲームを楽しむ (1時間)		
【成績評価の方法・基準】 受講態度（参加姿勢）、技能・理解度とその発展性能力を鑑みて総合評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は、各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 特になし、必要に応じて中高時における教科書を活用する。図書館の活用も行う。					
【参考書等】 必要に応じて資料を配布する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・積極的な態度にて自らの課題を持ち取り組む ・運動着、運動シューズを原則使用する。（運動に不適切な服装は認めない）					